

相愛大学研究シーズ集

シーズ名	若年者の食品ロスに関する意識・行動に関する研究
所 属	人間発達学部 管理栄養学科
氏 名	高井 玲子
<p>【概要】 日本における食品ロスの量は523万トンと推計(令和3年度)されている。この量は世界全体の食料援助量(年間約480万トン)の約1.1倍に匹敵する。日本では食料を海外からの輸入に大きく依存しながら、大量の食料が廃棄されているのである。このような現状から、令和元年10月に「食品ロス削減推進法」が施行された。また、国連においても2030年までに達成すべき「持続可能な開発目標」に食品ロス問題が含まれ、一人当たりの食料廃棄を半減させることを目標としている。様々な食品が豊富に出回っている現在、食料資源の浪費や環境への負荷の問題に目をむけ、食べ物を無駄にしない意識の醸成とその行動の定着を図っていくことが公衆衛生上の課題となっている。 この研究では、若年の食品ロスに対する意識や行動を調査し、その現状と課題を明らかにすることを目的として行い、併せて若年の世代へ食品ロスの啓発を推進することも行いたい。</p>	
キーワード	食育・食品ロス・持続可能な開発目標(SDGs)・ポピュレーションアプローチ